令和４年度　理科　授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・コロナ禍の中であっても可能な限り実験・観察を行うことができた。
・学習効果測定の結果から多くの部分で目標値や区内平均、全国平均に比べ高いポイントが得られた。
・内容別正答率が非常に高い分野がある。主体的かつ意欲的に学習に取り組んできた成果である。
・３学年の記述問題の正答率が高い。実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れてきた成果であると考えられる。

（２）　課題

・実験を考察する場面をさらに多く取り入れる必要がある。
・さらなる知識の定着を、小テストなどを用いながら図る必要がある。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第１学年	目標値とほぼ同じ程度である。活用問題では上回っているが、基礎問題ではやや下回っている。		
第２学年	校内平均正答率が、目標値を上回っているが、前年度よりやや数値が下がっている。	目標値とほぼ同じ程度である （第１学年時）	
第３学年	校内平均正答率が、目標値を上回っている。活用問題では、目標値を大きく上回っている。	目標値に比べ校内平均正答率が高く、区平均や全国平均に比べてもポイントが高い。前年度よりも大きく数値が上がっている。 （第２学年時）	目標値とほぼ同じ程度である。 （第１学年時）

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が 目標値をやや下回っている。	校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。

②　第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。

③　第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。	校内平均正答率が 目標値を上回っている。	校内平均正答率が 目標値をやや上回っている。

３　授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験・観察を中心に指導をする。活用問題には、時間をかけて考えさせ、考察をきちんと書けるように指導する。 「動物」「植物」に関する知識問題に、時間をかけていく。	実験・観察を行う前に生徒が方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法についての指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験・観察に対して意欲的に感じる。そのため、与えられた実験・観察をこなす授業ではなく、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（２）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り返し問題演習などを行うことにより定着を図る。 技能は第１学年の定着を基に実験・観察を中心に指導をする。	実験・観察を行う前に生徒が方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法についての指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験・観察に対して意欲的に感じる。そのため、与えられた実験・観察をこなす授業ではなく、生徒が実験結果を予測したうえで考えた方法を取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（３）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大田区学習効果測定の結果では、目標値よりもポイントが低かった問題は全て知識に関する問題であった。このことから、くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。 ３年間で習得した技能を実験・観察で生かせるように指導をする。	実験・観察を行う前に生徒が方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 化学変化と「物質の質量」では、時間をかけて分析を出来るように指導する。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験・観察に対して意欲的に感じる。そのため、与えられた実験・観察をこなす授業ではなく、科学的根拠を基に生徒が考えた方法を実際に取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。